

令和8年度 第1回  
国府地域振興未来会議議事概要

日 時：令和8年4月24日（金）13時半～15時半

場 所：国府地域交流会館

出席委員：山田一孝、前岡美華子、倉持裕彌、福田克彦、吉永昇平、長尾隆基  
福田大輔、池谷有希、矢芝好美、岸田玲子

そ の 他：地域おこし協力隊 次郎萬仁美

事 務 局：須崎支所長、藪下副支所長兼地域振興課長、田淵産業建設課長  
植村市民福祉課長、石原地域振興課長補佐

鳥 取 市：資産活用推進課 福井課長、長谷係長

傍 聴 者：1名

◎会議次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 地域振興未来会議第3回ワークショップ…………… 資料1
- 4 その他  
くらしと公共施設を考えるワークショップについて …………… 資料2
- 5 閉会

【概要】

3 地域振興未来会議第3回ワークショップ

《グループ①》地域資源を活かした賑わいづくり

[委員] 今回は外から見た国府町のイメージについて地域おこし協力隊員にお越しいただいている。忌憚のないご意見をお願いします。

[次郎萬] 広島から国府に来て2年。以前から国府のことは知っていたが、実際来てみると少し違っていた。寒暖の差が激しい。環境の緩急が激しいというのが一番の印象。地域によっては、地域外からの受け入れに対し閉鎖的な印象も受けた。食べ物がおいしい。お米や野菜、果物など国府町のものは全て美味しい。国府町の人口が減らないように、新しい人に住んで欲しいと思っている。

[委員] 知らない土地への移住はハードルが高いと思う。

[委員] 排他的、閉鎖的というのはあると思う。価値観が違くと受け入れがたい。移住者に自分たちと同じ生活はできない、自治会活動に参加するとは思っていない。自分たちの生活を守る警戒心が働いてしまう。ごみの捨て方な

どシステムを変えていくことが必要。遊びに来るのはよいが住むのは難しい。

[委員] 閉鎖的なのはすごく感じる。まず自分のことを知ってもらうことが大切だがそこが難しい。空き家を活用できればいいが、空き家は利益が出にくいとテレビで紹介していた。国府は新しい人にとって住みやすいかということと住みにくいのかも。自分たちが住むところの良さを知っているかといわれるとまだ知らないことが多い。

[委員] 鳥取砂丘も自分たちは価値があまりわからないが県外の人はずごく喜ぶ。池田家墓所の珍しさ・貴重さも自分は馴染みがありすぎて気づけなかった。このようなことをどうしていくか。

[委員] 海外の方が来て池田家墓所は墓、美敷水源地は水、海外の人には魅力が伝わり難い。自分たちの価値や魅力を見直すことが重要。この会議の着地点は見せ方だと思う。

[委員] どう賑わいを作っていくかがテーマ。何がキーポイントになるのか。

[事務局] 魅力をどのように発信するかがポイント。

[委員] 日常に慣れているので気づきにくい。小さいことでも情報発信することが大事。

[委員] 接客や魅力発信を全対象にするとどこにも刺さらないポイントを絞ることが大切。

[委員] 絞っていくことは確かに大切。

[委員] 雨滝は災害復旧工事で立入が規制されているのに、必ず来訪する人がいる。滝までの間に必ず集落を通らないといけない。広報について地元が迷惑しない手法が必要。国府の発信力がないことは行政の反省すべきところ。フォトコンテストは応募者が限定されてくるのでやり方が重要。

[次郎萬] 国府の空き家から出てきた着物をリメイクして万葉衣装を作った。広島でPRしたら問い合わせがあった。何かしらのきっかけで国府に興味を示していただけるのか、色んなターゲットを見つけたらよい。

[委員] そのように纏めるのがよいか、情報発信に特化した話にしていくのか、まずそこを絞ったほうがよい。

[委員] 地域資源を生かした地域づくり。

[委員] 最終的には市に要望していくんだとは思いますが

[委員] 情報発信する仕組みを作ることが大切。

[委員] 情報発信は大事だと思う。

[委員] 情報発信をするなら鳥取市として何がツールとしてあるのか。

[委員] 情報発信のツール。刺さる刺さらない、どのようにしていくか。

[次郎萬] 私はインスタを立ち上げている。このツールでよければ国府町のいろんな尖った発信をしてみたい。

## 【今日のまとめ】

地域資源を生かした地域づくりをどうするか。インスタを活用した情報発信は何が刺さるかわからないので、どのツールでどのような内容をしっかりと発信するのか、今後議論を重ねる必要がある。

### 《グループ②》持続可能な地域づくり

- [委員] いくつか議論するテーマがあるが、煮詰まっておらず、短い時間で複数のテーマを議論するのは難しい。
- [委員] まずは、未来会議の委員で使えるようなツールがあればと思ったのがこのテーマのきっかけ。時間的制約があり議論を1回の会議の中で煮詰めるのが難しいということと、会議の後に思いついた時につぶやいたら共有でき、議論が続いている状態が作れたらいいし、それが次の任期にも引き継げるというメリットがある。さらに、初回のワークショップの意見にあった濃くでもなく、薄くでもなく中間の「ゆるいつながり」で情報交換ができれば、デジタル上で解決できることや安心につながるようになるのではないかと思い、デジタルを試してみてもいいのではと思ったところ。
- [委員] 時間が足りないのはもったいないので、次年度への改善として提案したいのと、この形で進めていくならテーマを変えた方がいい。
- [委員] 神垣に耕作放棄地を活用してコンテナハウスがオープンした。直売所だけでなく憩いの場でもあり、こういう所が自分たちの力でできるというのは明るい話。
- [委員] 地域の資産がブランドにつながる取り組みがあり、今までなかったこういうのが増えていったらいい。
- [委員] ネットワークは同じ時期に同じものが大量に出てくる、売りたいものを売るので需要があるものではない、また広まって外からたくさんの方が買いに来た時に、クレーム対応がでてきて、そんなつもりじゃなかったのにと辞めざるを得なくなるのは勿体ない。
- [委員] 神垣のも、今はよくても評判になり噂に尾ひれがついて望んでない方向に行ってしまうたり、渋滞ができてしまったり、地元の人々の生活に影響が出てこないようにと望むのと、その責任を負わされるのはつらく、そのバランスが難しい。
- [委員] ネットワークが作れるとノウハウのある人がアドバイスできたり、そういう人と情報交換ができたりしたら面白い。これが「ゆるいつながり」に帰ってくるイメージで、こういうのが広がってほしいと思う。
- [委員] この未来会議が何か関わることがあるか。
- [委員] こういう場所を増やしたいけど、懸念事項として、経験がないとこういうリスクがある、これに気を付けようという情報を共有する場所が必要だと思う。せっかくやったのにその人が傷ついてほしくない。
- [委員] 初めにあれこれ伝えたとブレーキになるのでは。

- [委員] この会議体では状況を把握して共有していくということでもいいか。
- [委員] 国府町に住みたい人に住んでもらいたいというテーマは、最終到達点なので、今は置いておく。
- [事務局] 奨学金返済負担を軽くしたいは、鳥取県にはすでに制度としてあるが、国府町民のみではない。国府町民のみというのは難しい。
- [委員] 就職の際にその職に就く業界で奨学金返済の助成の仕組みがあれば、市に頼らなくてもすむ。これになりたいからこの大学に行くというのがはっきりしていたら分かりやすいが、そうばかりでもない。行政にかかわらせないようにはしないと難しい。どういう風にできるか、他の事例も調べてみないと。
- [委員] 国府中学校は遠征費やユニフォームなど寄附を体育文化振興会で賛同していただける家庭から一口500円を集めている。そのように、目的を分かりやすくアピールするとか、国府ならではのメリットを分かりやすくアピールすることが大事で、住むなら国府だよねとなればいい。
- [委員] やり方として、子育てとか教育にお金を使っています、そこを大事にしていますというのを分かりやすく示したら、国府に帰って来やすくなるし、国府を選んでもらえたりするのでは。
- [委員] 支所単位で未来会議があり、議論をすることの意味は、何かを独占していい思いをしたいというのではなく、未来会議で一つでも二つでもこれをしたい、委員の問題意識がこうだった、そしてそれが市全体の施策の問題提起につながったというのがないとこの会議の存続理由がない。  
奨学金や子どもの研修とか地域特化型の教育というテーマが出てきているが、市側にもう少し風穴をあけるチャンスはないだろうか。逆に、市に頼らずみんなでお金を集めようとか議論についてはどう思うか。
- [委員] 各自治会には、自治会費、体育協会費、福祉の会費などあり、高齢化の中これ以上自治会長さんに集金の負担をかけられないし、住民にも金銭的負担をかけられない。
- [委員] 春から就農したいという子がきている。家を建て、農機具を買うと大変でそういうのを応援できる仕組みがほしい。
- [委員] 国府は種場ということの認知と応援がほしい。国府が鳥取県全体のために頑張っているのに、責任の割には認知度が低く、もっと応援があったらと思う。
- [委員] 未来会議をうまく使って、「何かこういう事ができないか」「こんなお金がもらえないか」とか何かしかけられたらいい。
- [委員] 大茅で遊休施設を使って居場所づくりという構想もあったが、施設の関係でできないことが分かった。遊休施設はあるのに使えない状況にあり、面白い話だったのに、施設改修に大金がかかるし、自治会ではその負担はできないしで構想の内容が変更となった。

[委員] 情報共有をすると前向きな話しもできる。こういうのが蓄積されて、前向きな情報が見つけれられたり、どんな問題があるかをわかればわかるほど、国府のことを考えたり繋いだりする機会が増えるので、何か仕組みがいる。

[委員] 何かツールがないか。Line はとっかかりやすい。情報を集めてみんなが共有する。例えば、今日話した中で、これどうでしたっけ？と投げかけてみたり、次回こんな話をするから考えておいてねとか、周知をお願いしますみたいな使い方をイメージしている。

#### 【今日のまとめ】

農業については前向きな話が多く、そのまま広げていただきたい。国府の子ども向けの施策についてはハードルがあることを確認したところ。この会で話をする事により、国府を見る目や考えがクリアになっていっているのので、これを何とか仕組み作りにつなげられたらいい。SNS ツールみたいなのを導入してその中で動かせないかと考える。次回に向けてそのツールの選定や運用の仕方が議論できたらいい。

## 4 その他

資産活用推進課よりくらしと公共施設を考えるワークショップについて説明

## 5 閉会

次回の開催日時

令和8年6月12日（金）13：30～

国府町総合支所大会議室